

第43回熊本県乳牛共進会開催

経産牛の部GC・松島太一氏（熊本酪農協）所有牛
 未經産牛の部GC・村田瑞晃氏（球磨酪農協）所有牛



高橋 貞光氏

去る令和6年10月6日(日)、菊池郡大津町の熊本県家畜市場で第43回熊本県乳牛共進会（熊本県酪農業協同組合連合会主催）が開催されました。

県内各地から未經産牛30頭、経産牛33頭の63頭が出品され、熱戦が繰り広げられました。

審査員に高橋貞光氏（日本ホルスタイン登録協会）を迎え、未經産牛6部門、経産牛7部門に分けて序列づけが行われ、各部上位2頭により経産牛グランドチャンピオン、リザーブチャンピオン、未經産牛グランドチャンピオン、リザーブチャンピオンが決定されました。

審査の結果、松島太一氏（熊本酪農協）所有のキー エピソード クラツシヤブル号が2年連続の経産牛グランドチャンピオンを獲得し、経産牛リ

ザーブチャンピオンには、松岡明彦氏（菊池地域農協（旭志））所有のパインヒル クラツシユ フレイク号が選ばれました。

未經産牛グランドチャンピオンには、村田瑞晃氏（球磨酪農協）所有のスマイリー クララ ビーラム キャンプ号、未經産牛リザーブチャンピオンには、本田真人氏（菊池地域農協（旭志））所有のアンガラ ハーゲン アロングサイド号が選ばれました。

付帯行事として、今年もジュニアショウが開催され、津田大牙くんが金賞を獲得しました。

また審査終了後には、生産性向上と体型改良への意識の高揚、11月の九州連合ホルスタイン共進会や来年北海道で開催される全日本ホルスタイン共進会に向けた機運を高めることを目的として、共進会出品者に旅行券や阿蘇ミルク牧場ギフトが当たる抽選会が行われました。



MOTHER'S

経産牛の部 グランドチャンピオン



名 号	生年月日	出品組合	出品者名
キー エピソード クラツシヤブル	2 9 4	熊本酪農協	松島 太一

未經産牛の部 グランドチャンピオン



名 号	生年月日	出品組合	出品者名
スマイリー クララ ビー ラムキャンプ	5 2 10	球磨酪農農協	村田 瑞晃

MOTHER'S

経産牛の部 リザーブチャンピオン



第13部

名誉賞首席

名 号	生年月日	出品組合	出品者名
パインヒル クラツシユ フレイク	1 8 17	菊池地域農協(旭志)	松岡 明彦

未經産牛の部 リザーブチャンピオン



第6部

優秀賞首席

名 号	生年月日	出品組合	出品者名
アングラ ハーゲン アロングサイド	5 3 5	菊池地域農協(旭志)	本田 真人

各部名誉賞首席の紹介

第1部名誉賞首席

名 号		生年月日		
MICKYS コンシエルジュ エース		5	11	7
出品組合	球磨酪農農協			
出品者名	尾方 陵			



第2部名誉賞首席

名 号		生年月日		
レガーレ サマーフェスト アーニヤ		5	11	2
出品組合	菊池地域農協（泗水）			
出品者名	竹内 太輔			



第3部名誉賞首席

名 号		生年月日		
MICKYS スタートレック サイドキック		5	10	19
出品組合	球磨酪農農協			
出品者名	尾方 陵			



第4部名誉賞首席

名 号		生年月日		
KM サイドキック ジヤムパン		5	8	10
出品組合	ホワイト酪農協			
出品者名	(株) 有田牧場			

各部名誉賞首席の紹介

第5部名誉賞首席

名 号		生年月日		
ゴルチャイ セジス デルタラムダ ジーン		5	6	13
出品組合	菊池地域農協（泗水）			
出品者名	金子 紀之			



第7部名誉賞首席

名 号		生年月日		
トミーフィールド SS ヒラリー シルバラード		4	4	16
出品組合	熊本市農協			
出品者名	(有) トミーフィールド			



第8部名誉賞首席

名 号		生年月日		
KM ジャガー ハレナ		4	7	12
出品組合	ホワイト酪農協			
出品者名	(株) 有田牧場			



第9部名誉賞首席

名 号		生年月日		
ダビドソン レデイ ジャガー		4	1	26
出品組合	ホワイト酪農協			
出品者名	(株) 有田牧場			

MOTHER'S

第10部名誉賞首席

名 号		生年月日		
ホワイトフォックス ラムダ A リンダ		3	7	3
出品組合	菊池地域農協（泗水）			
出品者名	松岡 憲一			



第11部名誉賞首席

名 号		生年月日		
キー ロックスター サイドキック ローズ ET		2	11	6
出品組合	熊本酪農協			
出品者名	松島 太一			



第40回らくのうマザーズ枝肉共励会

令和6年10月25日（金）に菊池市七城町の㈱熊本畜産流通センターで、第40回らくのうマザーズ枝肉共励会が開催されました。

今回、1部乳用種の部36頭、2部交雑種の部8頭、3部黒毛和種の部6頭の合計50頭が出品され、村上秀一氏（熊本酪農協）の黒毛和種（ET）・去勢（福之姫-安福久-平茂勝）生体重821kg、枝肉重量554.8kg、BMS No.12、BCS No.3、ロース芯面積89cm²、ばらの厚さ9.4cm（等級A-5）が初のグランドチャンピオン受賞となりました。2部の島田輝昭氏（熊本酪農協）の交雑種・去勢（美津金幸）生体重823kg、枝肉重量504.9kg、BMS

No.7、BCS No.3、ロース芯面積48cm²、ばらの厚さ7.4cm（等級B-4）がリザーブチャンピオンとなり、2年連続の受賞となりました。

当日は快晴に恵まれ、セリ会場、枝肉展示が行われている冷蔵庫内では多くの出品者や関係者の方が熱心に見学されていました。

セリの冒頭、村上末嗣氏より心のこもった挨拶の後、セリ人による威勢の良い掛け声とともにセリが開始され、会場からは歓声上がるなど活発にセリは進行し、最後にグランドチャンピオン賞の枝肉が競られ、盛大な拍手とともに無事閉幕しました。

グランドチャンピオンは3,720円/kg、リザーブチャンピオンは2,550円/kgで落札されました。



村上 末嗣氏



表彰式



会長と受賞者、購買者



セリ風景

MOTHER'S

第40回枝肉共励会入賞者一覧 (順不同)

出品番号	出品組合名	出品者	褒賞
1部			
4	菊池地域農協(泗水)	内田 恵助	銀
17	玉名酪農協	開田 淳治	金
28	ホワイト酪農協	(株)有田牧場	銀
35	ホワイト酪農協	芳賀アグリカルチャー(有)	銀
36	菊池地域農協(旭志)	田中 栄一	銀
2部			
38	火の国酪農協	蓮尾 亮介	金
40	熊本酪農協	野口 孝昭	金
41	熊本酪農協	島田 輝昭	RC
42	上益城農協 益城町	(有)村上牧場	銀
3部			
45	菊池地域農協(旭志)	(有)水上牧場	銀
46	ホワイト酪農協	(株)有田牧場	金
47	熊本酪農協	新永 文治	金
48	熊本酪農協	村上 秀一	GC
49	菊池地域農協(菊池)	株式会社 益崎	銀



グランドチャンピオン枝肉



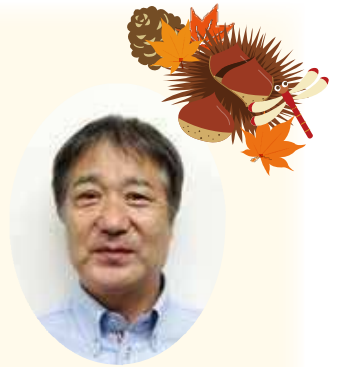
リザーブチャンピオン枝肉

第40回枝肉共励会出品データ (平均値)

	生 後 月 齢 (ヶ月)	生 体 重 (kg)	枝 肉 歩 留 (%)	枝 肉 重 量 (kg)	ロ ー ス 芯 (cm ²)	ば ら 厚 さ (cm)	皮 下 厚 さ (cm)	B M S No.	B C S No.	B F S No.	単 価 (円)
1部経産牛平均	68.0	810.2	52.7	427.9	38.4	4.6	1.5	2.1	5.7	3.7	1,041
1部若齢牛平均	21.5	777.0	58.5	455.4	35.5	5.8	2.2	3.0	4.5	3.5	1,445
1部全体平均	65.4	808.4	53.0	429.4	38.3	4.6	1.5	2.2	5.6	3.7	1,064
2部平均	24.6	789.8	61.8	488.1	47.4	6.7	2.4	3.8	3.6	3.3	1,770
3部平均	28.8	822.7	66.3	545.4	76.7	9.1	2.1	9.5	3.2	3.0	2,612
全体平均	54.5	807.1	56.0	452.7	44.3	5.5	1.7	3.3	5.0	3.5	1,363

COLUMN —コラム—

「第12次中期経営計画」 策定にあたって、私の推しは！



らくのうマザーズ管理本部長
桐原 陸実

記録的な猛暑から、一気に寒さを感じる季節になりました。

今年の冬の予想ですが、昨年が暖かかったせいで少し寒く感じるとのことです。皆様におかれましては体調に十分ご注意ください。

現在、私事となりますが、「熊本県酪連創立70周年」にあたる年度末で定年を迎え、最後の大仕事の1つ「第12次中期経営計画(令和7～9年度)」の策定を行っています。現行の第11次計画(令和4～6年度)は、令和5年度の売上で約730億円、乳業単体でも約237億円と中期計画を上回る形で推移しているところです。

しかし、長い歴史の中で本会経営は順調ばかりではありませんでした。「第1次中期経営計画(平成2～4年度)」の前身となる「長期経営改善計画(昭和62～65年度)」の策定時は、累積欠損金が10億円を超え、まさに熊本県酪連は危機に直面していました。当時は、貿易摩擦による輸入自由化や牛乳市場環境の悪化、LL工場建設による負担増等、諸々の要因により非常に厳しい財務状況でした。改善計画の達成に向け、経費面では、海外渡航の凍結をはじめ接待交際費の削減など細部に渡り徹底されました。また、熊本、天草、八代、城北の4営業所を熊本へ一本化するなど、16営業所から6営業所4出張所に整理統合され、私の勤務地だった中京営業所も関西営業所の駐在所となり、経理課へ異動しました。異動先での最初の業務は融資枠をお願いするための銀行廻りだったことを思い出します。

「長期経営改善計画」は一丸となって取り組んだ結果、乳業情勢の好転にも支えられ、最終年度を待たずに累積欠損は平成元年度で完全解消の見込みとなりました。これを受け、令和元年8月に「中期経営計画策定プロジェクトチーム」が中堅、若手20人で編成され、当時26歳の私もメンバーに選ばれました。これが「第1次中期経営計画」でした。「21世紀をめざし本県酪農ならびに本会の将来あるべき姿を創造し、会員・酪農家の負託に応えるべく、本会一丸となって将来展望に立った強固な経営基盤を確立する。」を目的とし、基本テーマを「牛づくり、人づくり、健康づくり」と

し、牛づくりは、より良い生乳生産を高め、都府県一の優良牛の生産基盤確立と酪農家の

経営安定を目指す。人づくりは、“組織は人なり”組織を支え機能させるのは各個人であり、その自覚・能力を高め組織を発展させる。健康づくりは、消費者の安全を守り、健康づくりに貢献していく。これは、現在の土台となっています。

今回、第12次中期経営計画策定にあたり、酪畜近の論議が進められている中、酪農を取り巻く環境はこれまでにない厳しい局面にあり、一方でAIをはじめ情報技術は目まぐるしく進化するなど、非常に先の読めない状況に置かれていることから、大変難しく捉えております。

さて、大リーグで活躍する大谷選手は、17歳の時に夢を叶えるために9×9マスの「マンダラシート」に「ドラ1、8球団」の大きな夢を中心に書き、達成するための課題を周りに書き作成していたことはよく知られています。しっかりと夢を描き、それに向かって具体的に行動することが如何に重要かです。「どうにかなるだろう。」と考えがちなO型の私にはちょっと耳が痛い話ですが…。

苦境や先行き不安な時ほど、中・長期の計画(特に経営計画)を立てることが必要とされます。メリットとして、①現状を把握する機会になります。②今後進むべき方向性が明確化されます。③目的や意識を共有できます。

熊本の酪農は、全国第3位、西日本一の生乳生産県です。この重要な役割と武器を今後も推し進めて行くことが「らくのうマザーズ」の役目であり使命だと考えています。会員、酪農家の皆様をはじめ私たち職員が、将来に向けてしっかりと安定して仕事ができることが重要です。これを基本に、新年度からスタートする「第12次中期経営計画」については、夢を盛り込み、確実に実行できる計画を策定したいと思います。そのために「らくのうマザーズ」に対する皆様のご理解とご協力、そしてご意見を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

～ 令和5年乳用牛群検定成績まとめから ～
 生産本部指導部営農指導課 大村 耕治

令和5年の乳用牛群検定成績の一部をまとめましたのでお知らせします。
 また、令和5年1月から12月の間で305日検定記録のあるホルスタイン種の立会検定11,177頭のデータを基に、下記のポイントを考慮され収益向上や費用削減に活用して頂きたいと思えます。

(図1) 単位：頭、kg、ヶ月、日

検定組合	データ頭数	乳量①			初産年齢②		乾乳日数③		分娩間隔④	
		平均	最低～最高	7000kg未満頭数	平均	最低～最高	平均	最低～最高	平均	最低～最高
01検定組合	162	9,665	4,297～13,382	7	26.2	21～33	67	19～388	465	311～768
02検定組合	2,524	10,436	3,467～18,233	93	25.0	19～48	60	5～454	431	298～1,754
03検定組合	1,210	10,328	4,681～18,463	77	24.4	19～57	58	3～336	429	306～883
04検定組合	1,624	9,952	4,264～16,611	79	24.2	19～61	60	3～380	426	300～1,008
05検定組合	835	9,737	3,712～15,202	62	26.0	20～54	60	1～300	445	293～1,111
06検定組合	763	10,280	5,357～16,316	20	24.0	19～33	59	2～285	422	311～743
07検定組合	1,666	9,203	2,673～16,041	197	24.7	19～50	60	1～461	437	256～1,051
08検定組合	661	10,479	3,708～16,426	34	24.4	19～39	54	4～197	449	315～963
09検定組合	493	9,729	4,516～15,747	32	24.9	20～46	62	17～445	451	304～1,060
10検定組合	780	10,135	4,073～16,205	35	24.6	20～50	61	3～190	426	302～709
12検定組合	124	8,962	5,712～11,962	6	26.7	21～43	54	20～180	451	323～700
13検定組合	335	9,706	4,632～14,785	19	24.3	18～35	58	3～187	425	314～764
平均	11,177	10,008	2,673～18,463	661	24.7	18～61	60	1～461	435	256～1,754

*ホルスタイン種のみでのデータとなります。

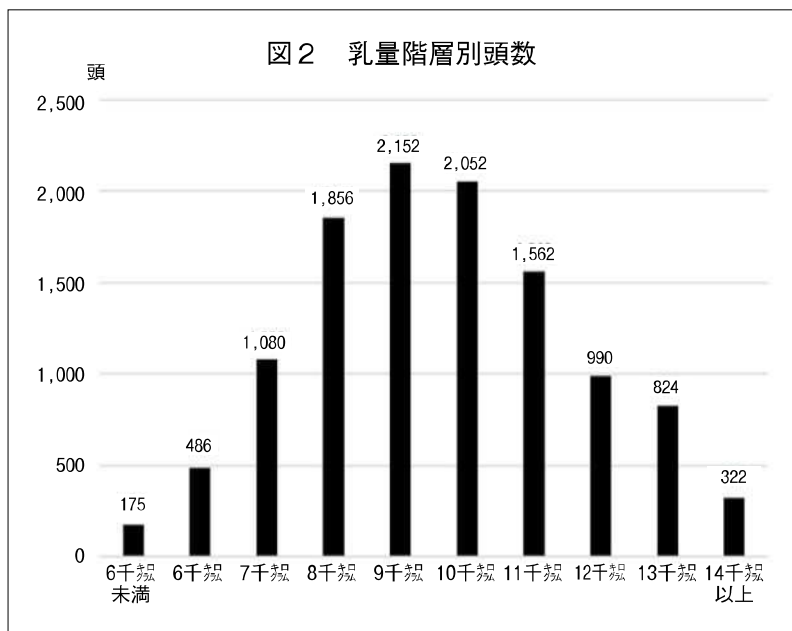
1. 乳量 (図1の乳量①、図2)

1頭当たり平均乳量は、10,008kg(2,673kgから18,463kg)で前年を101kg下回りました。検定組合別の平均乳量で見ますと、12検定組合中10,000kg以上が5組合、9,000kg台が6組合、8,000kg台が1組合でした。また、個体乳量で7,000kg未満の牛が、661頭と乳牛本来の能力を発揮できていないと思われます。

何が原因で能力を発揮できていないのか、原因を把握し改善を行いましょう。

2. 初産月齢 (図3)

農家平均初産月齢は、25.1ヶ月令(19ヶ月から43ヶ月)で前年と同じでした。乳牛は分娩して生乳生産することで、農場に利益をもたらします。そのため、初産分娩月齢が遅くなると、飼料費が増え余計な労力もかかります。初産分娩が遅れることは様々な要因があると思えますので酪農経営安定のためにも、



農家平均初産月齢に近づくよう要因を把握し改善しましょう。

3. 乾乳日数 (図4)

農家平均乾乳日数は、62.8日(27日から128日)で前年より1.8日多くなりました。乾乳日数の構成比率は、50日以上～70日未満が全体の67.0%を占めています。また、乾乳日数が長くなるほど、乳量は徐々に低下する傾向となっていますので、分娩予定日を把握し適正な乾乳日数とすることで飼料費削減につなげましょう。

なお、乾乳期の飼養管理が重要でありうまくいかないと、分娩後の生乳生産量・疾病発症・繁殖成績に大きく影響します。特に分娩後に発生する疾病は乾乳期の飼養管理と強い関係にあります。これらの疾病を防ぐためにも、乾乳期に適切な飼養管理を行いましょ。

4. 分娩間隔 (図1 - 分娩間隔④、図5)

平均分娩間隔日数は、435日(256日から1,745日)で前年より4日短縮しました。分娩間隔(435日)から乾乳日数(60日)を引くと搾乳日数が375日になり、それから妊娠期間(285日)を引くと受胎日が個体平均で90日になります。これを分娩間隔ごとに平均値を算出し1日あたりの乳量を求めたら、1日あたりの乳量が減少傾向にありました。このことから、分娩間隔が長い場合は、経済的な損失に関連することから、分娩間隔が短くなるよう繁殖管理の向上を行いましょ。

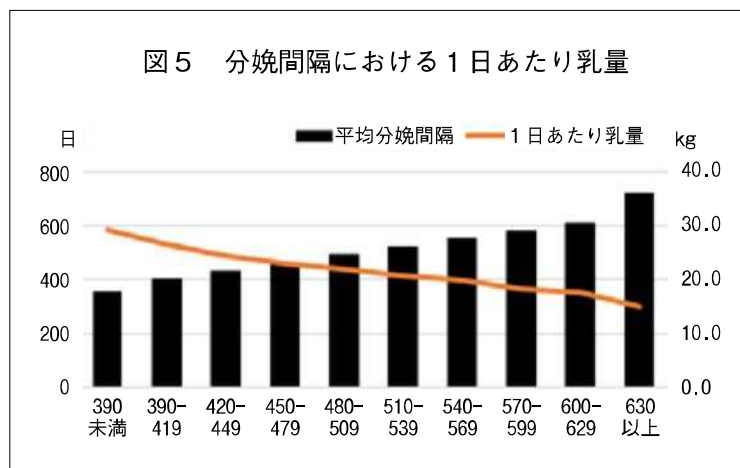
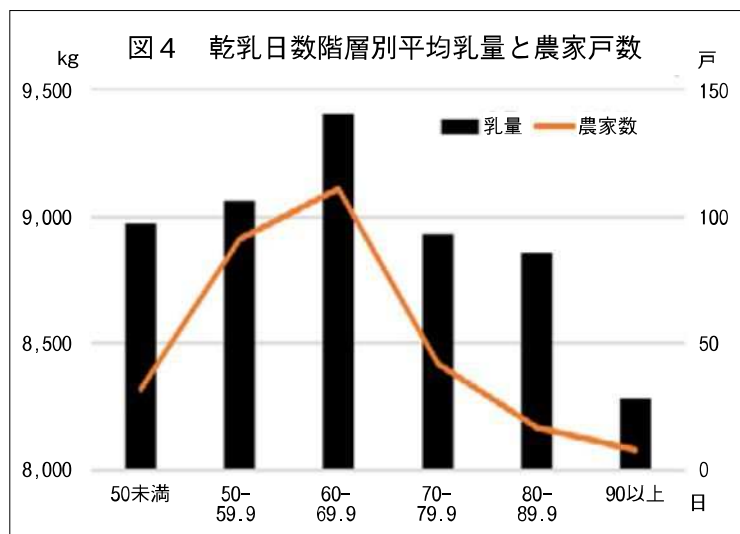
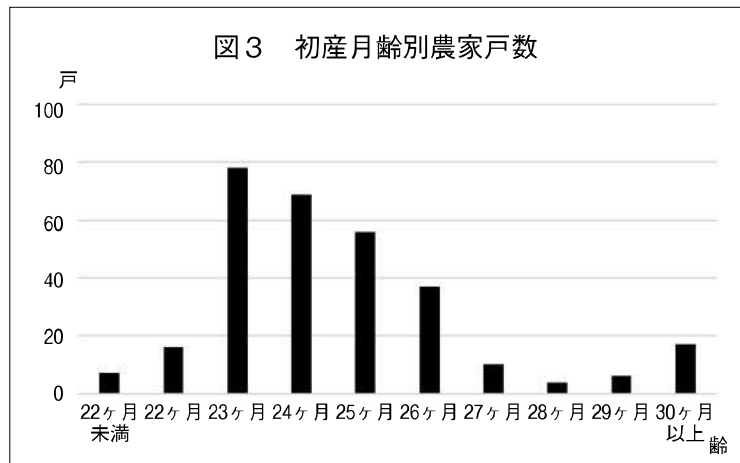
5. まとめ

一昨年昨年と乳価は上がったものの、物財費(飼料費、種苗費、肥料費、農業薬剤費、光熱動力費など)や円安における農業用設備の高騰による生産費の増加により酪農経営は厳しい状況となっています。

昨今の厳しい酪農情勢で酪農経営を安定させるためには、①乳牛改良による個体の潜在的な能力向上、②個体能力の発揮に必要な飼養管理技術の向上、③生産乳量を確保するための繁殖管理などの見直しを行い、経営力向上を行わなければなりません。

牛群検定はデータの宝庫です。個々の傾向がどのような状況か、客観的にわかるようになっていっていますので、年に一度でも牧場の状況確認を行い、大きく変化する国内外の情勢を乗り越える足腰の強い酪農経営基盤を造り上げましょ。

ご質問やご要望がございましたら、お気軽に営農指導課までご連絡下さい。(TEL 096-388-3510)



第3回熊本県酪農女性レクリエーション大会を開催!

主催：熊本県酪農女性部協議会・らくのうマザーズ

日時：令和6年10月23日
場所：大津町総合体育館

第3回熊本県酪農女性レクリエーション大会が上記の日程で開催されました。今回の競技も昨年同様「ポッチャ」での開催となりました。県内各地より、46チーム140名の酪農家が集い、老若男女問わず大いに楽しんでいただきました。チームによっては、自チームボールを相手ボールにぶつけてはじいたり、ジャックボール（目印ボール）をずらしたりと1投で大きく局面が変化し、各コート熱戦が繰り広げられました。中には、ジャックボールを自チームコート寄りに投げ、相手チームから

遠い位置に配置するなど戦略がカギを握っていた大会ではなかったでしょうか。

緊迫した決勝戦を見事制し、46チームの頂点となったのはいちごみるく（JA熊本市）でした。その他の結果は下記の通りとなっています。

今年は昨年よりも多く、幅広い年代の会員に参加いただき、忙しい日々の憩いの一時となったのではないのでしょうか。

参加された選手の皆様、大変お疲れさまでした。

試合結果

順位	チーム名（組合名）
優勝	いちごみるく（JA熊本市）
準優勝	大阿蘇C（大阿蘇酪農協）
3位	COW STORY（熊本酪農協）

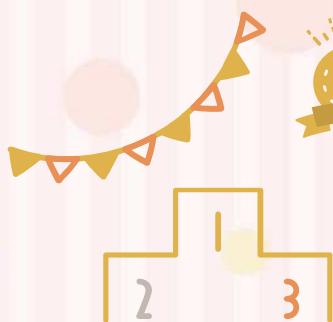
順位	チーム名（組合名）
コンソレーション優勝	DIY（熊本酪農協）
コンソレーション準優勝	ジャイアン（熊本酪農協）



内ヶ島会長



小池常務



優勝：いちごみるく（JA熊本市）



準優勝：大阿蘇C（大阿蘇酪農協）



3位：COW STORY（熊本酪農協）

MOTHER'S



ワクチンによる子牛の疾病予防①

～免疫について～

生産本部 技術課 宮原 佑

猛暑の夏から季節が進んで、だんだんと冬が近づいて来ました。寒くなってくると増えるのが子牛の病気です。特に肺炎と下痢が多く、子牛の治療の大部分を占めています。重症化すると死亡する場合もあり、回復しても将来的な増体や生産性に大きな影響を与えます。子牛の病気を予防するために様々なワクチンが開発されており、実際に多くの農場で使用されています。そこで冬に増えてくる子牛の病気を防ぐために、ワクチンの仕組みと種類について2回に分けてお話ししたいと思います。

今回はワクチンの考え方の基本になっている免疫について説明します。少し分かりにくい用語も出てきますがお付き合い下さい。

免疫について

免疫とは「体内に侵入した病原体などを特別な細胞や抗体によって排除する機能のこと」です。人や牛だけでなくすべての生物に備わっている機能で、免疫のおかげで私たちは環境中に存在する多くの病原体から守られています。免疫反応で働く特別な細胞のことを免疫細胞と言います。免疫反応は主に活躍する免疫細胞によって**自然免疫**と**獲得免疫**の2つの段階に分かれます。

①自然免疫（図1）

病原体が侵入した局所で起きる反応で、侵入後数時間で反応します。自然免疫はどんな病原体に対しても非特異的に反応します。ここで活躍するのは**食細胞**と**白血球**です。

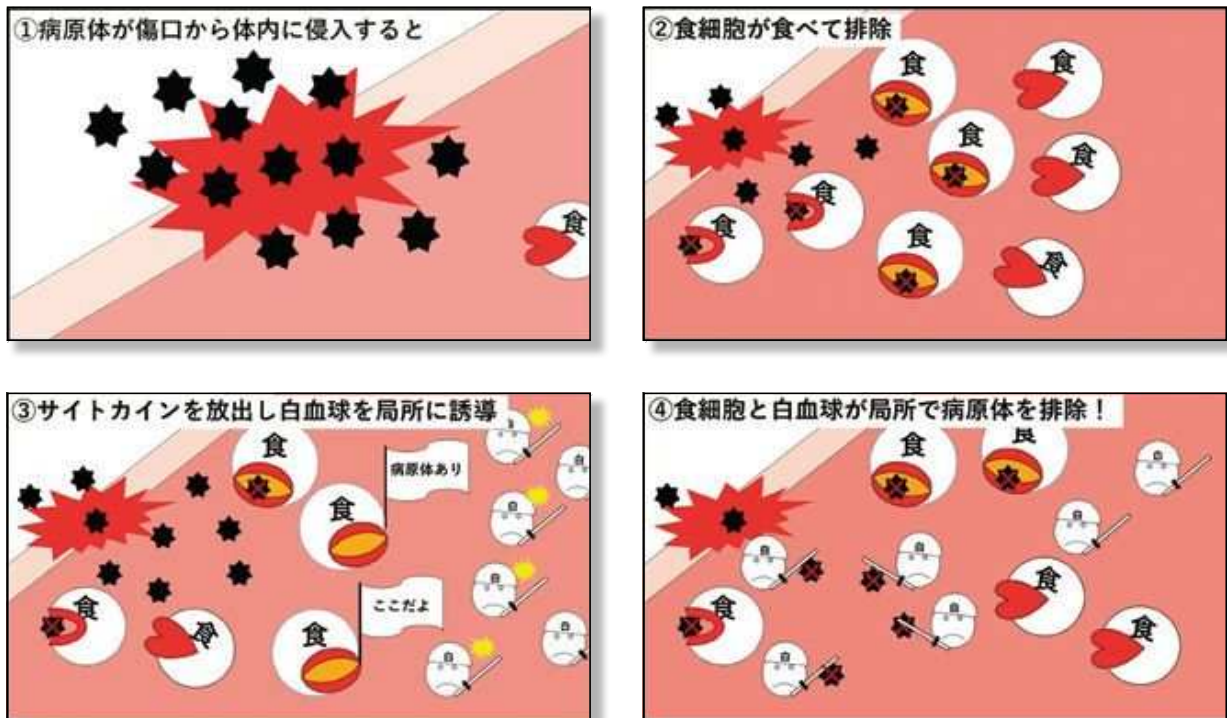
病原体が侵入した時に最初に働くのが**食細胞**です。食細胞は病原体を細胞内に取り込む（=食べる）ことで排除する細胞です。それだけでなく他の免疫細胞を引き寄せる物質（サイトカイン）を放出したり、他の免疫細胞に食べた病原体の情報を伝えます。サイトカインは主に免疫細胞で産生され、他の免疫細胞に情報を伝える物質の総称です。種類によって他の免疫細胞を活性化、あるいは抑制するなど様々な働きがあります。

食細胞から放出されたサイトカインによって**白血球**が局所に誘導されます。誘導された白血球は細胞内にリゾチームや活性酸素などの強力な抗菌物質を持っています。白血球は病原体に対して抗

菌物質を放出するだけでなく、食細胞と同様に病原体を食べて細胞内で殺菌する働きがあります。

このように食細胞や白血球などの免疫細胞が主体となって局所で病原体を排除する非特異的な働きが自然免疫の特徴です。

図1) 自然免疫の概要



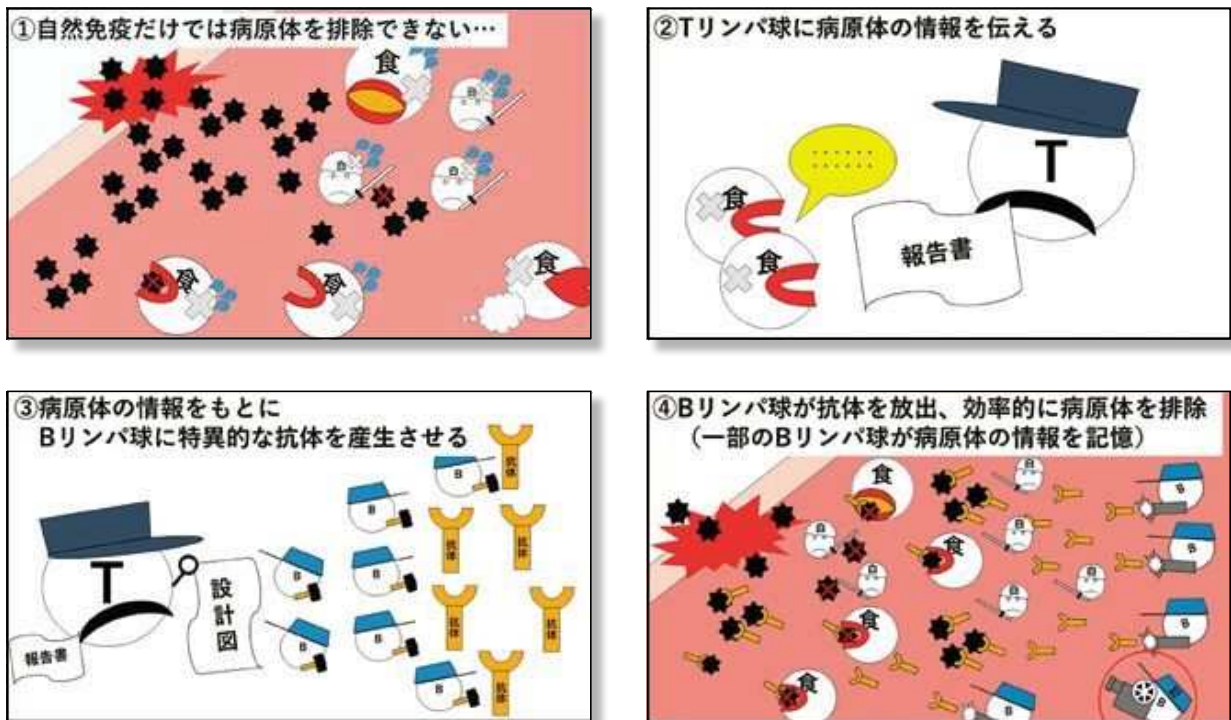
②獲得免疫 (図2)

病原体が感染してから数日かけておきる反応です。この反応で活躍する免疫細胞はリンパ球です。リンパ球は白血球の一種で、役割によってTリンパ球、Bリンパ球などに分類されます。

自然免疫で病原体を排除しきれなかった場合、食細胞からTリンパ球に病原体の情報が伝えられます。情報を受け取ったTリンパ球はBリンパ球に命令して抗体を産生させます。抗体は病原体に結合することで感染や増殖を阻害、毒素を中和して無効化、目印となって免疫細胞が病原体を攻撃しやすくするなどの役割があります。Bリンパ球が産生した抗体は侵入した病原体にだけ特異的に反応して

結合します。その結果、食細胞や白血球が病原体を攻撃しやすくなり、効率的に排除することができます。このように**特異的な抗体**を産生することで、様々な病原体に対して抵抗力を獲得することができる点が獲得免疫の特徴です。

図2) 獲得免疫の概要



病原体が初めて感染した時に起こる自然免疫から獲得免疫までの一連の流れを一次免疫応答と言います。一次免疫応答で活躍したBリンパ球の一部は、侵入した病原体と抗体の情報を記憶した**記憶細胞**として体内に残ります(図2-④赤丸)。そして次に同じ病原体が侵入した時には記憶細胞が迅速に大量の抗体産生を行って病原体を排除します。このように記憶細胞によって初回よりも効率的で強い免疫反応が起きることを二次免疫応答と言います。ワクチンによる疾病予防(ワクチネーション)はこの二つの免疫応答の原理を利用しています。

小難しい内容で分かり難かったかもしれませんが、今回の内容がワクチンの考え方の基本となっています。長くなりましたので、ワクチンについては次回説明したいと思います。

続く

